

海外居住邦人主婦の育児に関する研究

財団法人 日本健康開発財団
常務理事 植田理彦
主任研究員 力石道勝

研究目的

国際化の進展する現在、各企業の日本から海外へ赴任する帯同家族は、世界の各地に散らばっており、海外生活で日本と異なる環境のため、育児に関する健康、教育問題で悩む主婦が増している。そこで本研究は、海外駐在を経験した主婦が、海外での育児、教育、健康問題でどのような状況におかれ、悩みをもったかを調査し、その実態を知ることがを目的とした。

調査方法

上記の研究目的を達成するために、昭和57年4月より12月までに、当財団総合健診センターで健診を受けた主婦の中で、年齢12歳以下の子供を持ち、海外駐在の経験のある人に対して、メールによる育児に関するアンケート調査を実施し、併せて生化学的検査を中心とする健診データについて、渡航前と帰国後にどのような変化があったかを比較検討した。(資料1)

I アンケート調査結果の分析

アンケート回収率は182名中116名63.7%
アンケート調査では

- 1) 海外での育児状況
- 2) 海外での育児及び教育感
- 3) 海外での医療及び健康状態
- 4) 海外生活での心配事

以上4項に大別して調査した。資料(2)

以下主たる項目について述べる。

①出産について

現地で出産した経験者は、先進国で26人、開発途上国で8人であった。出産のため日本へ一時帰国した者はいない。海外で出産の不安のある者は、予め日本で出産を済ませて出国した。現地で出産した人々は、外国での経験をするため、多少の不安はあっても現地事情にまかせた。資料(3)

②子供の就学状況

「現地の学校に入学させた」が46人で先進国で44人、開発途上国は2人、(その中1人は日本人学校へ転校させている。また他の1人はアメリカンスクールに入学させている。)
「日本人学校に入れた」者は、先進国で14人、開発途上国で22人であった。資料(4)

③主人と育児についての話し合い

「よく」か「まあまあ話した方である」が合計して60人と過半数を占め、「日本と変りなかった」が48人、「まったく話さなかった」が6人いた。資料(5)

海外に駐在すると日本で生活するのと異なり育児に関する夫婦での話し合いが多くなっているようである。

④育児方針

海外生活のために変った人は2人で、その1人は開発途上国駐在者で、日本式に育てたいと方針を定め、また1人は駐在国の風習に併せて育てたいと定めている。「やや変った」が53.6%で、44.6%は変らない。資料(6)

⑤育児上の心配事

「子供の健康」が最も多く56.9%。次いで「友達との交際」が43.1%。「帰国後の教育」が29.3%となっている。

⑥定期健康診断

何らかの方法で子供に健康診断を受けさせていた人は81.0%と極めて多かった。資料(7)

⑦生活上一番心配だった事

「病気、健康に関して」が41.4%「医師、医療機関に対して」が34.5%「生活、習慣の違い」が12.0%であった。資料(8)

⑧子供の罹病

「一般的なカゼ」「歯の病気」「一般的な下痢」「じんましん」「大きな外傷」などで特に海外特有の風土病には罹患していない。

Ⅱ 母親の健康状態：出国前後の健診データの比較

10名の者に就いて、海外駐在前と帰国後の健診データを比較検討した結果、各項目について有意の差は認められなかった。

体重、総コレステロール、中性脂肪、血糖、など海外生活の影響があるかと思われたが、この年代の女性に於ては変化は認められなかった。

資料(9-13)

なお、検査項目については以下のとおりであった。

体重、血圧(収縮期圧～拡張期圧)
赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット
MCV, MCH, T・P, A/G比, T・T・T・
Z・T・T・, ALK-P, GOT, GPT,
ビリルビン、尿素窒素、クレアチニン、
尿酸、ナトリウム、カリウム、カルシウム、
総コレステロール、中性脂肪、アミラーゼ、
グルコース

—以上—

海外駐在家庭婦人へのアンケート調査

昭和 57 年 11 月

財団法人 日本健康開発財団
総合健診センター
所長 植田 理彦

海外駐在からの無事ご帰国おめでとうございます。また、平素より当健診センターをご愛顧いただき、ありがとうございます。つきましては、当健診センターは海外に駐在なさったご婦人の方に、現地での育児や保健衛生の問題についてアンケート調査をし、今後、海外で生活される皆様のご参考にしていただこうと企画いたしました。お忙しいとは存じますが、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお、ご回答は 月 日までにご返送下さるようお願いいたします。

〈ご記入のお願い〉

1. あらかじめ回答項目が用意された質問は、あてはまる項目の番号を○でかこんで下さい。
2. 質問項目の終わりに「複数回答」とある場合は、該当する回答の番号にいくつでも○をして下さい。それ以外の場合は、該当する回答番号にひとつだけ○をして下さい。
3. 回答が「その他」に該当する場合は、() 内にその内容を具体的にご記入下さい。
4. 「自由回答」とある場合は () 内に自由にお書き下さい。
5. 何回もご駐在されている方は一番最近のことをお書き下さい。
6. 一時帰国で日本に帰られる方もアンケートにお答え下さい。
7. ご記入の際、ご不審、ご不明の点は、財団法人 日本健康開発財団 東京(03)-274-6076 方石までご連絡いただければ幸いです。

問11. (まったく変わった方へ) どのような点がかわりましたか。

(自由回答)

()

問12. ところで、あなたのお子様は、海外駐在中定期的に健康診断を受けていましたか。

1. 健康診断はまったく受けていなかった。
2. 特定の医療機関ではないが、ときどき健康診断を受けていた。
3. 特定の医療機関ではないが、定期的に健康診断を受けていた。
4. 特定の医療機関で、ときどき健康診断を受けていた。
5. 特定の医療機関で、定期的に健康診断を受けていた。

問13. 海外駐在中に、お子様はどのような病気にかかりましたか。

かかったすべての病気の該当する番号に○をつけ、その中で、もっとも症状の重かったものの番号には◎をつけて下さい。

(複数回答)

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1. 腎臓病 | 2. 気管支ぜんそく | 3. ノイローゼ |
| 4. ヒフ病 | 5. 貧血 | 6. 大きな外傷 |
| 7. じんましん | 8. 食中毒 | 9. 伝染病、寄生虫病 |
| 10. 歯の病気 | 11. 一般的な風邪 | 12. 一般的な下痢 |
| 13. その他(具体的に | |) |

問14. 最後にお伺いがいしますが、育児上、現地での生活で一番心配だったのは何ですか。なんでもけっこうですからお書き下さい。

(自由回答)

()

——ご協力ありがとうございました——

資料.2

(1) 駐在時の年齢

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳
人数	0	18	94	4
100%	0	15.5	81.1	3.4

(2) 駐在期間

駐在期間	3か月以上 5の月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上
人数	2	2	14	24	34	40
100%	1.7	1.7	12.1	20.7	29.3	34.5

(3) 駐在国

駐在国	先進国	開発途上国
人数	72	44
100%	62.1	37.9

(4) 駐在先での住居形態

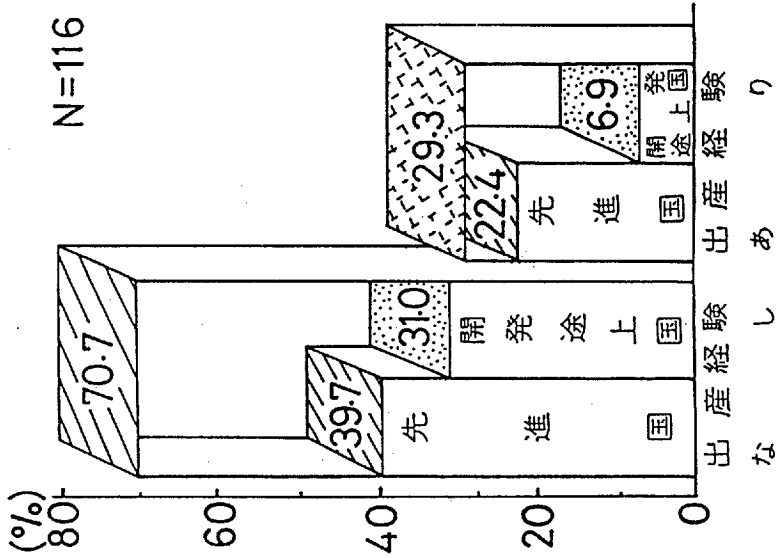
住居形態	ホテル	アパート	一戸建て	その他
人数	0	64	44	8
100%	0	55.2	37.9	6.9

(5) 駐在経験

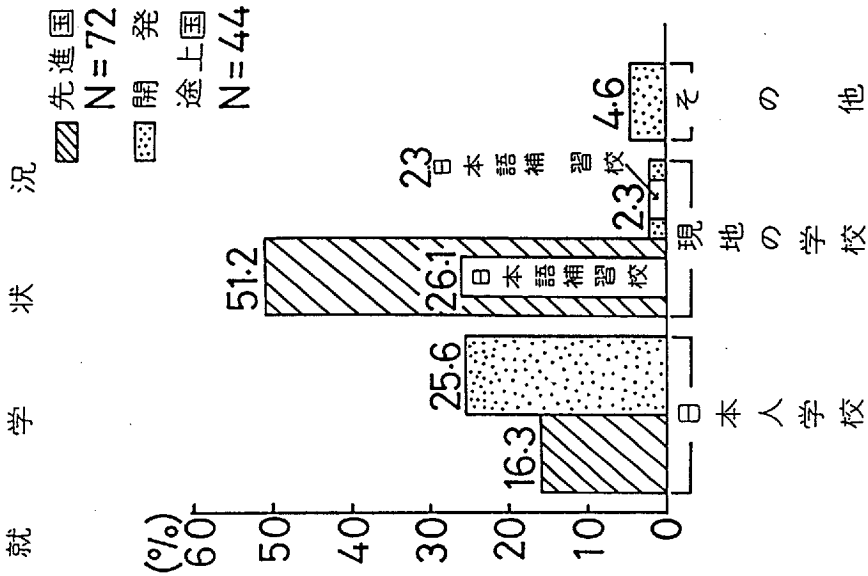
駐在経験	1回	2回	3回
人数	90	20	6
100%	77.6	17.2	5.2

資料.3

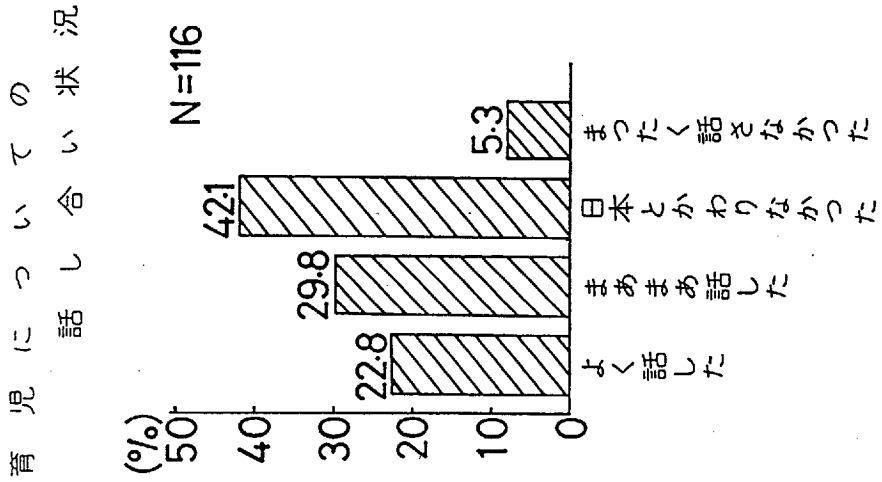
出産経験



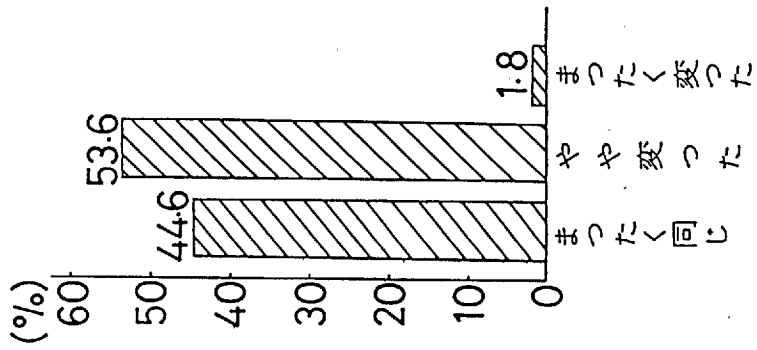
資料.4



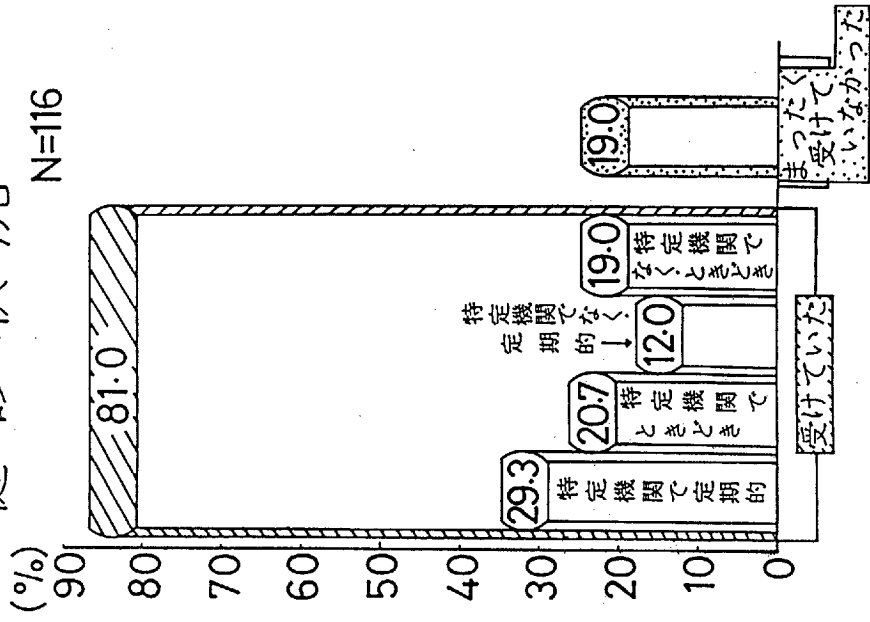
資料.5



資料.6
育児方針の変化
N=112

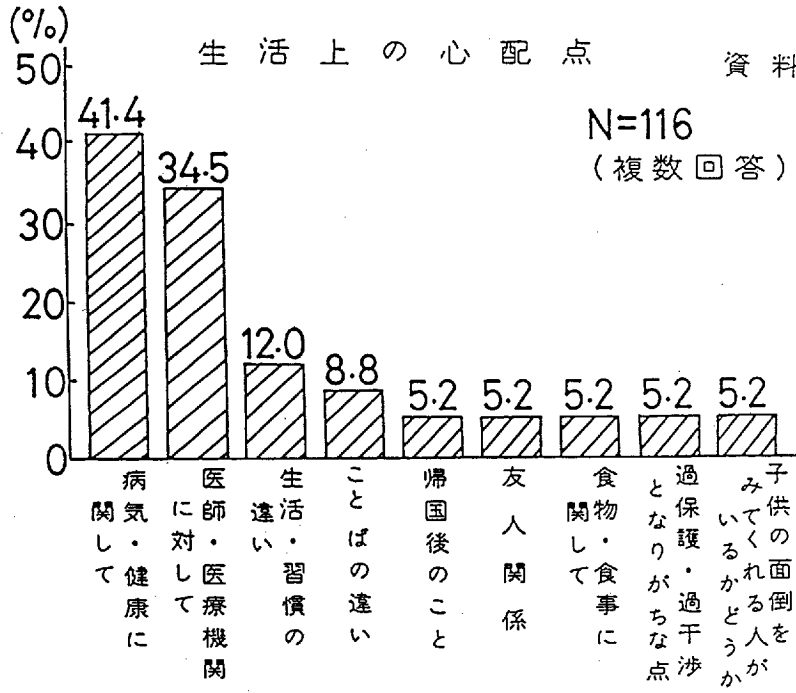


資料.7
健診状況
N=116



生活上の心配点

資料.8



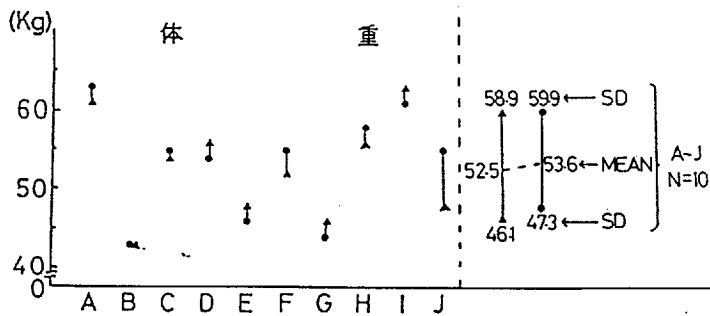
資料.9

	年齢	子供の年齢	滞在期間
A	34才	4, 1才	2年
B	37	9, 7	2
C	35	10, 6, 3	1
D	36	8, 4	3
E	31	7, 5	4
F	39	12, 2	4
G	42	12, 7	3
H	37	9, 7	5
I	37	11, 8, 4	5
J	40	14, 10	5

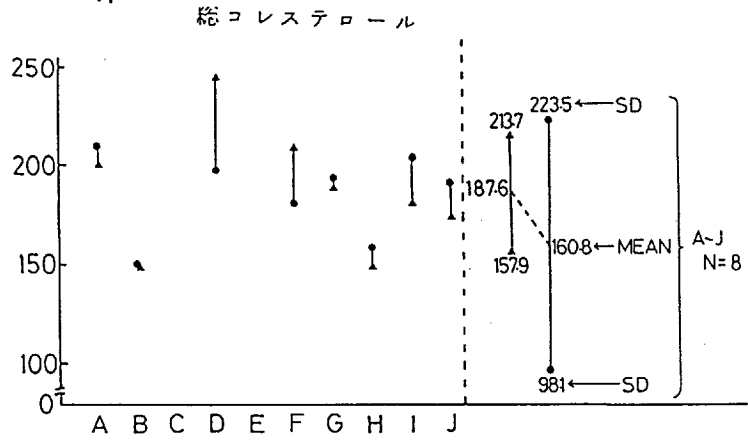
▲—海外駐在前

●—海外駐在後

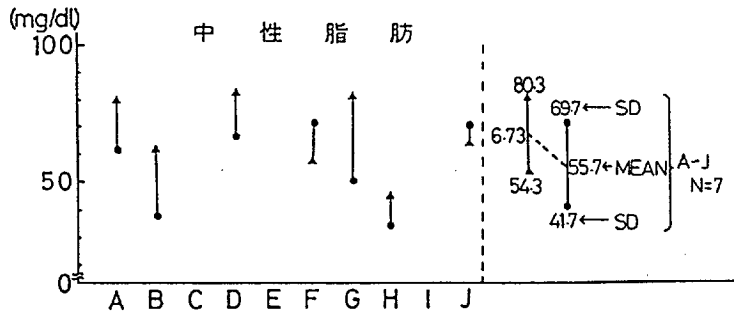
資料.10



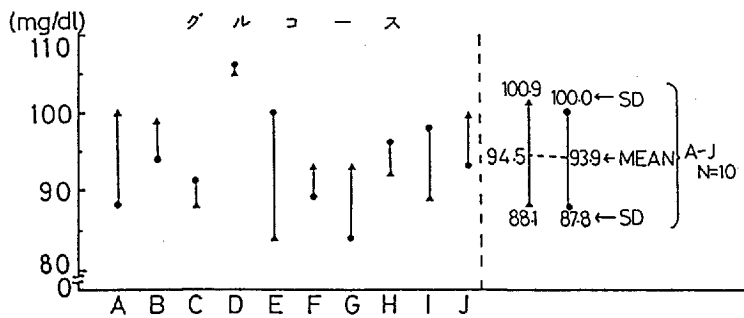
資料.11



資料.12



資料.13





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

国際化の進展する現在,各企業の日本から海外へ赴任する帯同家族は,世界の各地に散らばっており,海外生活で日本と異なる環境のため,育児に関する健康,教育問題で悩む主婦が増している。そこで本研究は,海外駐在を経験した主婦が,海外での育児,教育,健康問題でどのような状況におかれ,悩みをもったかを調査し,その実態を知ることがを目的とした。